

式 辞

日増しに春の色が濃くなる今日のよき日、岡山県教育委員会から平賀 和治 参事様、服部 忠文同窓会長様、中村 有作 P T A 会長様をはじめ多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、岡山県立岡山操山高等学校第六十二回卒業式を、かくも厳粛に挙行できますことは、まことに感激に耐えないところでございます。本校教職員、在校生とともに、ご臨席の皆様にまず厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与された卒業生の皆さん、まことにおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

今日の晴れの日を迎えることができたのは、皆さん自身のたゆまぬ努力によることは申すまでもありませんが、まず、皆さんの健やかな成長を願い、陰に日向に心を尽くしてこられた保護者の方々やご家族の限りない愛情の賜物であること、そして、同窓会ははじめ地域社会の方々の深いご理解とご支援によるものであることに思いを致してください。

保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。めでたくご卒業の日をお迎えになられ、一段と成長されたお子様の晴れ姿に、お喜びもいかばかりかと拝察いたします。心からお祝いを申し上げますとともに、これまで本校教育の推進に賜りましたご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

さて、卒業という節目に当たり、皆さんに期待することを、三つお話しして、はなむけの言葉にしたいと思います。

第一は、「謙虚な心と人への暖かいまなざしを常に忘れないでほしい」ということです。

中国の古典『大学』の中に「心ここに在らざれば、視れども見えず、聞けども聞こえず」という章句があります。私たちの心の在り方次第で、物事の本質が把握できるかどうか、生きるヒントが発見できるかどうかが決まります。すべての基本は、人としての心の在り方にかかっていると言って過言ではないでしょう。

私たちの人生の道行きは、その心を磨き高め深めるためにあると信じて疑いません。

卒業生の皆さんにも、謙虚な心を基に、想像力を育て、人への思いやりを大切に、これからの人生を豊かなものとしていただきたいと期待しています。

第二は、「人々や社会への貢献につながる生き方をしてほしい」ということです。

皆さんは、「日本や国際社会の未来を切りひらく高い志の育成」を教育目標

の第一に掲げる岡山操山高等学校の生徒として、真剣に学び、「各教科」の学習をはもとより、総合的な学習の時間「未来航路プロジェクト」、「松柏祭」をはじめとする学校行事、部活動など、あらゆる活動によく頑張ってきました。それは何のためか。単に大学進学そのものが目標ではなかったはずです。

これからの未来航路に船出する皆さんには、本校での学びを通じて形成した将来の目標があるでしょう。その目標達成の基本として、「人々や社会のために、どのような貢献ができるか」という点を常に意識しながら、日々精進していただきたいと、心から願ってやみません。

人々や社会への貢献は、岡山操山高等学校を卒業される皆さんに課せられた貴い責務であると確信しています。

第三は「目標達成や課題解決のために努力を継続してほしい」ということです。

これからは、地球規模での社会や経済の変化が一層甚だしく、今まで思いもよらなかった課題が突然生じて、時機を失することなく適切な対応を行うことが必要となる事態も予想されます。

「和して流れず」しっかりと自己を確立しつつ豊かな感性や柔軟性を基礎に、これまで学んだ知識や技能を総合し、諸課題の解決に向けて、応用力、思考力、想像力を発揮していくことが必要でしょう。

岡山操山高等学校における学びの基礎を発展させ、いかなる困難の中であろうと、自身の理想を高く掲げ、自らを鍛え育てるとともに、「操山ファミリー」の和を心に体して目標の達成に向け力強く歩んでください。

岡山操山高等学校のよき伝統を継承しながら新しい時代を切り開いて生きる皆さんのご卒業に当たり、お祝いの心を込めて、はなむけの言葉を申し上げます。

どうか、健康にはくれぐれも留意され、それぞれの思い描く将来の理想実現を目指して、大いに精進していただきたいとご期待を申し上げ、併せて皆さんの輝かしい未来に幸多かれと、心から祈っています。

結びに、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、保護者の皆様に、これからも卒業生たちの自己実現に向けた成長の過程を、温かく見守っていただきますようお願い申し上げまして、式辞といたします。

平成二十三年三月二日

岡山県立岡山操山高等学校

校長 廣本 勝裕